

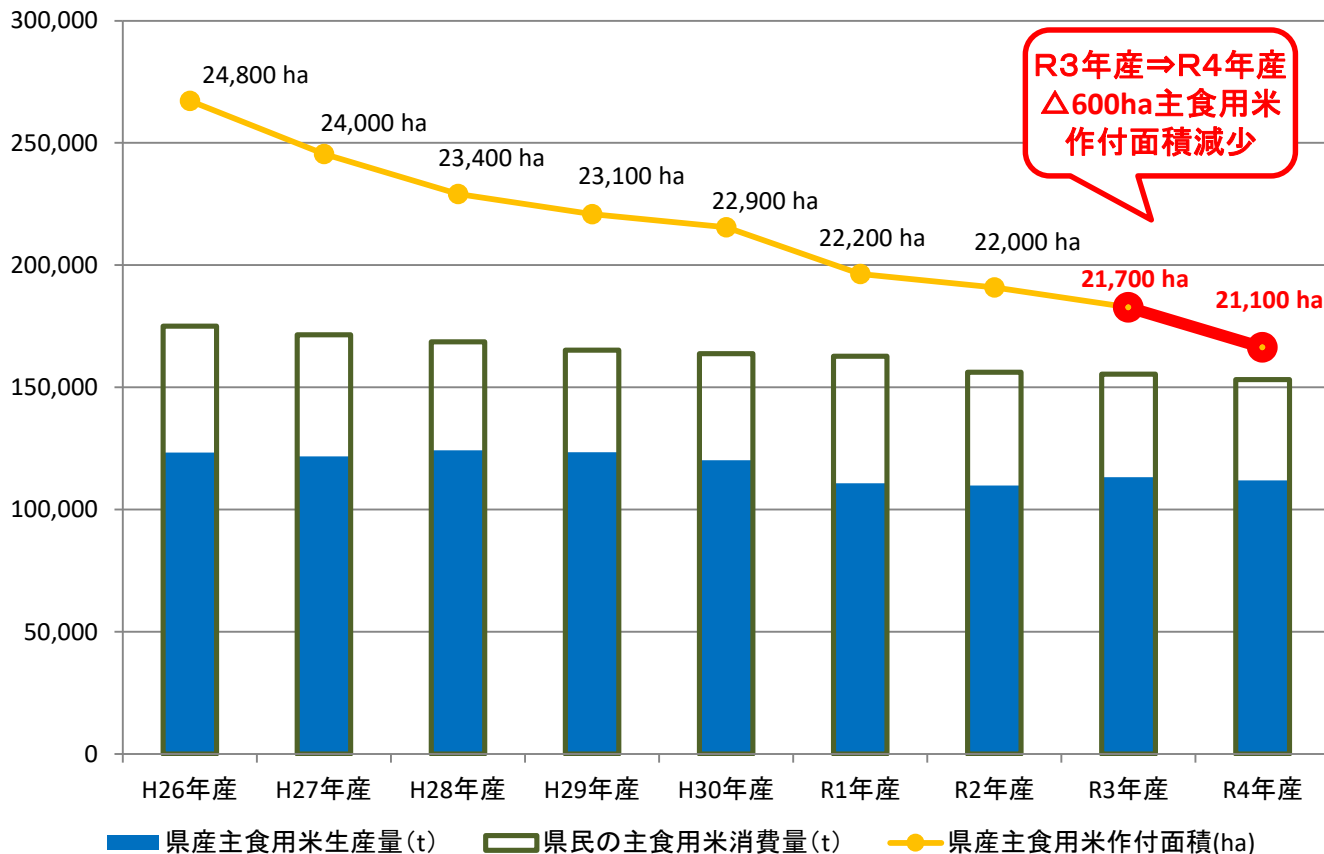
広島県主食用米・非主食用米の生産及び需要動向 (令和4年11月8日現在)

広島県農業再生協議会では、平成30年産からの米政策見直し後も、需要に応じた生産を行うための取組のひとつとして、広島県内の水稻の生産状況や令和5年産の需要動向をまとめました。

- 県内の主食用米作付面積は年々減少しており、令和4年産は令和3年産に対して600haと大幅に減少しました。県産米の生産量は県民の米の消費量を下回った状況が続いています。
- 令和3年産は、全国的な米価の下落の影響により、県外産が流入し、一部の需要が県外産に置き換わっています。
- 令和5年産の主食用米については、需要に応じた生産を継続するとともに、安定的に供給するための生産体制を維持していくことが重要となっています。

県民の主食用米消費量と県産主食用米生産量及び作付面積の年次別推移

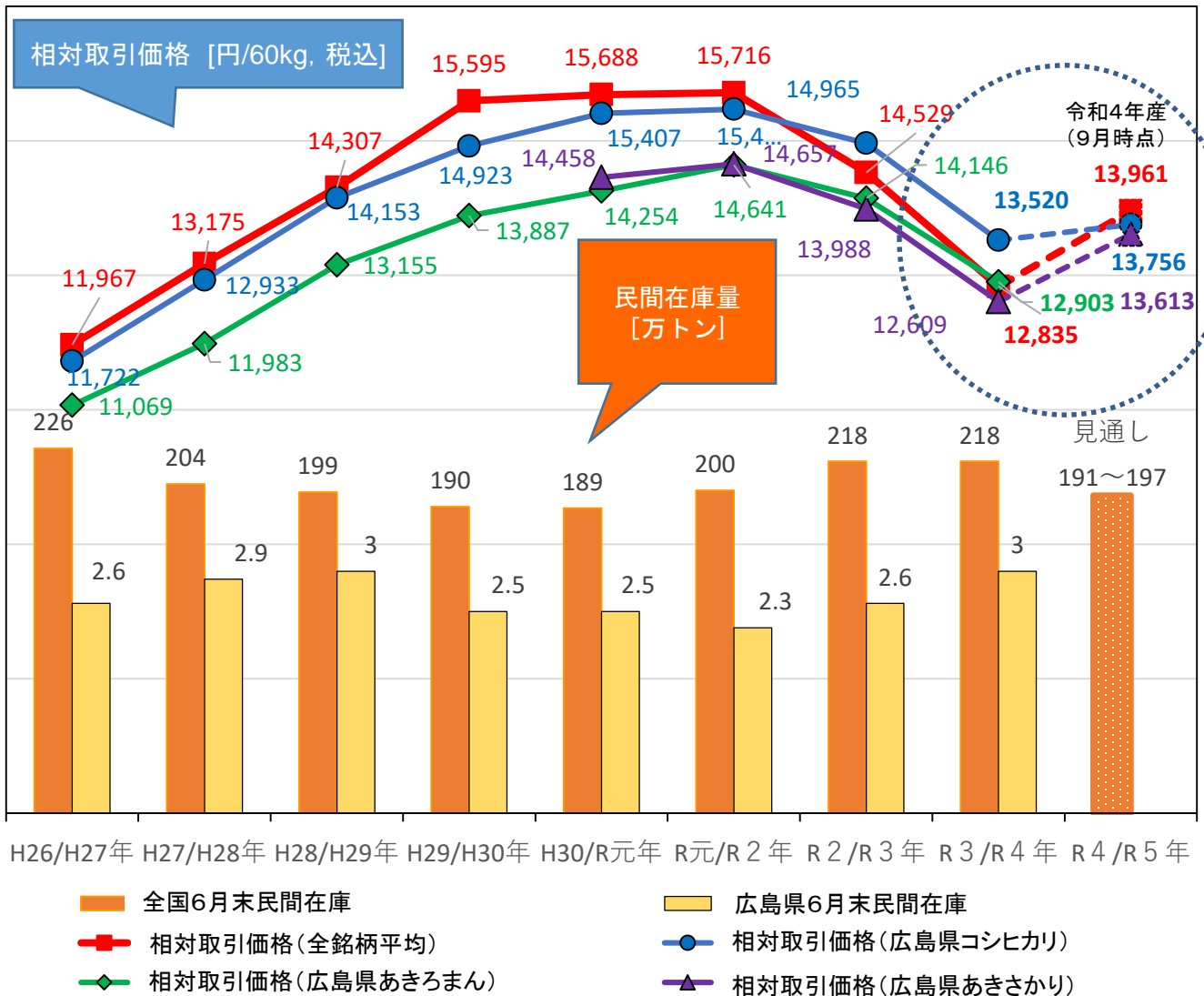
(単位:t)



出典 県産主食用米生産量及び作付面積:農林水産省作物統計調査
県民の主食用米消費量:農林水産省公表の1人当たりの米消費量に広島県公表の広島県推計人口を乗じて算出(推計値)

年産別相対取引価格と民間在庫の推移

- 令和3年産は全国的な需給緩和の影響を受け、相対取引価格が下落し、全銘柄平均より価格が上回る品種があり、県外産が流入しやすい状況でした。
- 全国の令和4年産主食用米等生産量は、当初国が示した適正生産量を下回る見通しとなり、令和4年産(9月時点)は、3年ぶりに前年を上回る価格水準で取引が始まっています。
- 一方、県内の令和3年産の民間在庫は、令和2年産と比較して約4,500t増加しています。
- 地産地消を中心とした県産米需要に着実に応えるためにも、まずは販売先のニーズを把握し、需要者と結びついた生産に取り組むことが益々重要となってきます。**



出典：農林水産省「米の相対取引価格(通年平均)」「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」
 ※価格は出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格(運賃・包装代・消費税を含む1等米価格)の加重平均したもの。ただし、広島県の各銘柄の価格には全農契約分の運賃は含まれていない。

米の銘柄(品種)別検査数量の年次推移と令和5年産主食用米需要動向

○令和5年産主食用米の需要動向は家庭用を中心として一定の需要があるものの、事業者の在庫状況により、品種ごとに異なっています。令和5年産の生産計画を立てるにあたっては、販売先の品種ごとのニーズを把握することが重要になっています。

品種名	検査数量(t)					令和5年産		栽培適地
	平成29年産	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	トレンド	需要動向	
コシヒカリ	26,374	25,588	23,016	22,849	22,942	△	主に家庭用として一定の需要が定着している。一方、需要動向は事業者の在庫状況によって異なる。	標高550m以下
あきさかり	6,147	9,026	10,229	11,403	10,612	⇒ ~ ⇩	品種特性から家庭用・業務用ともに需要があるものの、生産規模急拡大及び業務用需要減少により供給過剰傾向となっているため、事業者により需要量に幅がある。	県中北部 (標高150~500m)
あきろまん	5,184	5,021	4,077	3,773	4,053	△	広島県独自銘柄として知名度が高く、需要が定着している。「あきろまんの日」の制定により、需要拡大に向けた動きはあるが、需要動向は事業者の在庫状況によって異なる。	県中北部 (標高150~350m)
ひとめぼれ	2,991	3,236	2,759	2,895	2,539	⇒ ~	全国銘柄として家庭用・業務用ともに需要はある。生産量が年々減少しているため、事業者によって需要量に幅がある。	県北部・高冷地 (標高300~550m)
あきたこまち	1,865	1,691	1,674	1,581	1,676	⇩		県北部・高冷地 (標高400m以上)
ヒノヒカリ	2,592	1,616	1,391	983	1,696	⇩	良品質であることを前提に一定の需要は想定されるが、近年高温障害による品質低下や作付け減少により、需要の減少が見込まれる。	県南部 (標高200m以下)
恋の予感	2,511	2,551	1,949	1,283	1,545	↗	近年、地域性のある品種として主に家庭用としての需要の増加が見込まれる。	県南部 (標高150m以下)

出典：H29～R3検査数量：農林水産省『米穀の農産物検査』（令和3年産は、令和4年3月31日現在の速報値）
 令和5年産仕向け別動向：県内米取扱事業者への調査を参考に作成（令和4年10月県再生協調べ）
 令和5年産トレンド
 △・・・調査対象者のR4対比需要量・需要動向から需要増が想定される。
 ⇩・・・調査対象者のR4対比需要量・需要動向から需要減が想定される。
 ⇒・・・調査対象者のR4対比需要量・需要動向からR4年産並みの需要が想定される。
 △・・・調査対象者のR4対比需要量・需要動向の方向性の不一致による需要増減の判断が困難
 ⇒～⇩・・・調査対象者のR4対比需要量・需要動向に幅があり、R4年産と同程度から需要減が想定される。

令和5年産は県内の主要な主食用米取扱事業者（4社）への調査を基に現時点の大まかな傾向を掲載しています。営農計画を作成する際は取引先等に必要な銘柄・需要量をご相談ください。

広島県産非主食用米の生産量推移と令和5年産需要動向

○令和5年産非主食用米の需要動向のうち米粉用米は一部の取り組みにおいて需要が減少、WCS用稲は県内国産飼料の安定的な確保に向け、需要拡大が想定されます。

県内畜産業者へ供給する飼料用米は令和4年産と同程度と見込んでいるが、一部の事業者において需要量に対して生産量が足りていない状況にあります。

用途	生産量(t) (WCS用稲:ha)					令和5年産	
	平成30年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産	トレンド	需要動向
加工用米	1,839	1,873	1,926	1,697	1,860	⇒	県内酒造会社を中心とした需要は令和4年産と同程度と想定される。
米粉用米	593	591	661	659	690	↘	県内製粉業者を中心とした需要は、コロナ禍による在庫増大のため、一部の取り組みにおいて需要減が想定される。
飼料用米	2,337	1,761	1,568	2,272	2,780	⇒	県内養鶏業者を中心とした需要は前年同規模と見込んでいるが、一部の事業者において需要量に対し、生産量が足りていない。
WCS用稲	562	552	549	585	614	↗	県内向け国産飼料の安定的な確保に向け、需要拡大が想定される。
計 (WCS除く)	4,769	4,225	4,155	4,628	5,330	—	—

出典：H30～R4生産量：農林水産省『加工用米の取組計画認定状況』『新規需要米の取組計画認定状況』（需給調整カウントとなる加工用米・新規需要米の取組として認定を受けた数量（面積））

令和5年産仕向け別動向：県内非主食用米取扱事業者への調査を参考に作成（令和4年10月県再生協調会）

R5年産トレンド ◁…調査対象者のR4対比需要量・需要動向から需要増が想定される。

↘…調査対象者のR4対比需要量・需要動向から需要減が想定される。

⇒…調査対象者のR4対比需要量・需要動向からR4年産並みの需要が想定される。

令和5年産は県域で非主食用米取扱のある事業者（3社）への調査を基に大まかな傾向を掲載しています。営農計画を作成する際は取引先等に必要な銘柄・需要量をご相談ください。

作成：広島県農業再生協議会（HP：<http://www.h-suiden.jp/>）

〈問い合わせ先〉広島県（広島市中区基町10-52 農業経営発展課 電話082-513-3557）